

3. 「ヒートアイランド監視報告 2014」のまとめ

各都市における長期変化傾向（統計開始から 2014 年までの統計による調査結果）

【都市の高温化】

各都市では、都市化による気温の長期的な上昇傾向がみられ、特に日最低気温で大きい。
気温の長期的な上昇は、夏に最小となる都市が多い。
都市化率が大きい地点ほど気温の上昇率が大きい。
各都市では、冬日は減少し、熱帯夜や猛暑日、真夏日は増加している。

【都市の乾燥化】

各都市では、都市化による相対湿度の長期的な低下傾向がみられる。
相対湿度の低下率は秋、冬に最大となる都市や、梅雨時期に最小となる都市が多い。
都市化率が大きい地点ほど相対湿度の低下率が大きい。
各都市では、霧日数は減少している。

【都市での降水量】

各都市では、大雨や短時間強雨の有意な長期変化傾向はみられない。

都市気候モデルによる解析結果

【2014 年 8 月】

関東地方では、都心部から埼玉県東部で都市化の影響が明瞭に現れていた。
近畿地方では、大阪平野の東部で都市化の影響が明瞭に現れていた。
東海地方では、愛知県西部で都市化の影響が明瞭に現れていた。
2014 年 8 月は、太平洋高気圧の日本への張り出しが弱く、曇りや雨の日が多かったため、都市化の影響が比較的小さかった。
都市化の影響は日中より夜間の方が大きかった。

【夏と冬の比較】

都市化の影響は夏より冬の方が大きい。

— 参考文献 —

環境省,2004: ヒートアイランド現象による環境影響に関する調査検討業務報告書

<http://www.env.go.jp/air/report/h16-04/index.html>

環境省,2013: ヒートアイランド対策ガイドライン平成 24 年度版

http://www.env.go.jp/air/life/heat_island/guideline/h24.html

気象庁,2005-2014: ヒートアイランド監視報告（平成 16 年～平成 25 年）

<http://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/himr/index.html>

気象庁,2015: 気候変動監視レポート 2014

<http://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/monitor/index.html>

藤部文昭,2012a: 都市の気候変動と異常気象 猛暑と大雨をめぐる, 朝倉書店.

藤部文昭,2012b: 観測データから見た日本の都市気候, 気象研究ノート, 第 224 号, p.1-23.